

若手生産者を中心とした組織活動によるナス産地の活性化

～GAP手法の取組を通して～

尾張農林水産事務所農業改良普及課

課題の背景

会員数、栽培面積、出荷量、販売金額とも減少
組織的な活動による**産地の活性化**が必要
JA愛知西なす協議会は、若手生産者組織(生産技術係)
が新たな技術に取り組み、協議会内に普及させる体制がある
消費者・実需者からは**GAP (農業生産工程管理)**が求めら
れている



目標

GAP手法が定着し、会員の産地意識が高まり、産地が活性化する

普及活動と成果

GAP手法の本格導入

チェックシート素案
作成支援

全員で取り組む前
に試してみよう!

生産技術係、役員
による試行支援

会員へのGAP手
法の取組啓発

チェックシート
修正支援

継続して取り
組むために、
チェックの負
担減らそう

本格導入開始

協議会員全員がGAP手法に取り組んだ



GAP手法の定着

チェックシートの集計、分析支援

会員への集計結果報告と
改善提案支援

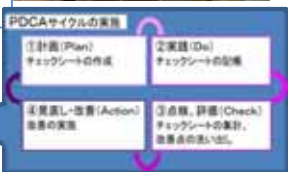
GAP手法の定着

GAP手法の高度化

国のガイドラインに則するための
チェックシートの見直し支援

GAP内容の高度化

会員の衛生管理意識も向上



特に労働安全に関する項
目の追加、修正の実施

成果

協議会員全員で、消費者・実需者を意識した**GAP手法**に取り組むことにより、**産地が活性化**
安全なナスを生産する産地という意識が向上

鮮度保持に対するカラー産地の新たな取組

海部農林水産事務所農業改良普及課

対象と背景

早尾花き組合 (17名)

湿地性カラー
全国3位の産地
組合の重要品目 (販売金額の4割)
出荷ピークは春 (全出荷量の約半分)

問題点

春彼岸以降の日持ちの悪さ!

出荷が増えるけれど花屋は買い控え
→そのため1本単価が安い!
(年平均より5~10円安)

産地の救世主として
着目したのは…

「ミラクルミスト」®

これだ!!



処理は簡単!! 500倍液に花苞を1秒浸けるだけ

目標

鮮度保持剤処理の導入 → 春の販売力強化!

普及活動

合意形成前の根回し

全体会 (定期開催) ↔ 役員会 (事前協議)

情報提供 他産地の導入状況 経済的評価提示
鮮度保持剤処理方法の検討 夫婦同伴で検討会実施
日持ち効果の実証試験 実証結果で示して説得

個別巡回

疑問点の解消と導入への誘導



鮮度保持剤処理導入決定!

効率的な処理に向けた導入決定後の支援

サンプル出荷およびチラシの作製 → 全出荷箱内に入れてPR
処理中に明らかになった問題点の整理と改善



成果

市場の評価も上昇! 生産者も日持ち効果を実感!

導入前より
春の単価4円Up!
6.8万円/10a売上Up!

鮮度保持剤処理が定着!

早尾のカラーは日持ちの良さが
セールスポイント

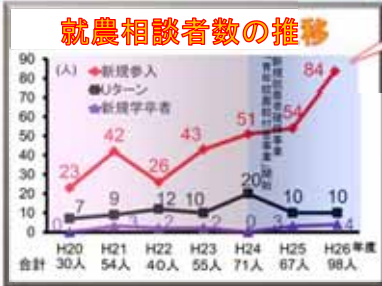
今後の課題

もっと花屋に宣伝! 出荷期間の延長を検討!
処理を知らない花屋も多い…
日持ちの良さで6月まで販売可能

新規参入就農希望者への就農支援

知多農林水産事務所農業改良普及課

課題の背景・目標



親元就農の減少
新規参入就農希望者の増加

- ・新規参入就農希望者のニーズに応じた個別支援
- ・研修受入農家・市町・JA・普及課等関係者での情報共有

新規参入就農希望者の就農

45歳未満の
新規参入就農者の
確保と自立にむけた
就農支援

新規参入希望者の就農後は？
自己破産候補者？

新規参入就農希望者への支援活動

「技術がない」
「農地がない」
「資金がない」

就農後では手遅れなことが多い！
就農前の準備が大切！

市町・JAと連携して就農サポート

就農相談



「技術がない」
↓
技術習得のため
しっかり指導できる
農家での研修へ誘導

- ・相談者ニーズの把握
- ・起業するリスクの説明
- ・就農意欲の高い希望者の抽出



就農への支援



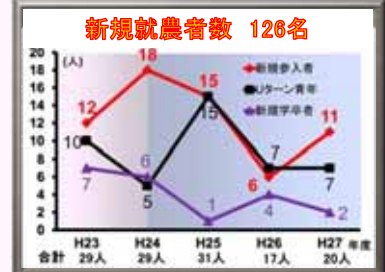
「農地がない」
↓
農地の確保
条件の確認

「資金の不足」
↓
資金の確保、就農支
援策及び就農までの
スケジュールの検討



活動成果

就農希望者のニーズを的確に把握
関係機関の連携した支援を実施
問題点を理解させた
自主的に取り組み行動を起こさせた



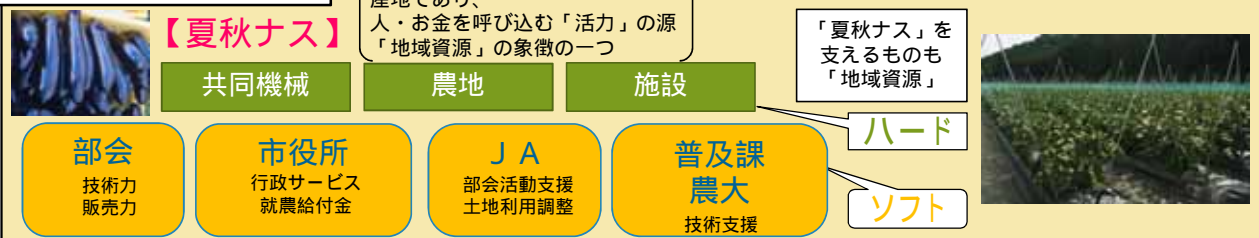
平成23年～27年の5年間で
新規就農者の確保目標65名に対し
126名を確保
その内45歳未満の新規参入就農者は52名

自立まで導けた45歳未満の
新規参入就農者
46名

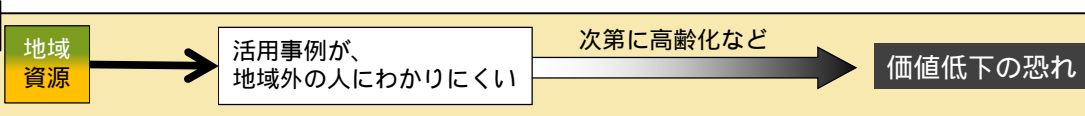
夏秋ナスを起点とした地域資源の活用推進

西三河農林水産事務所農業改良普及課

額田地域の地域資源



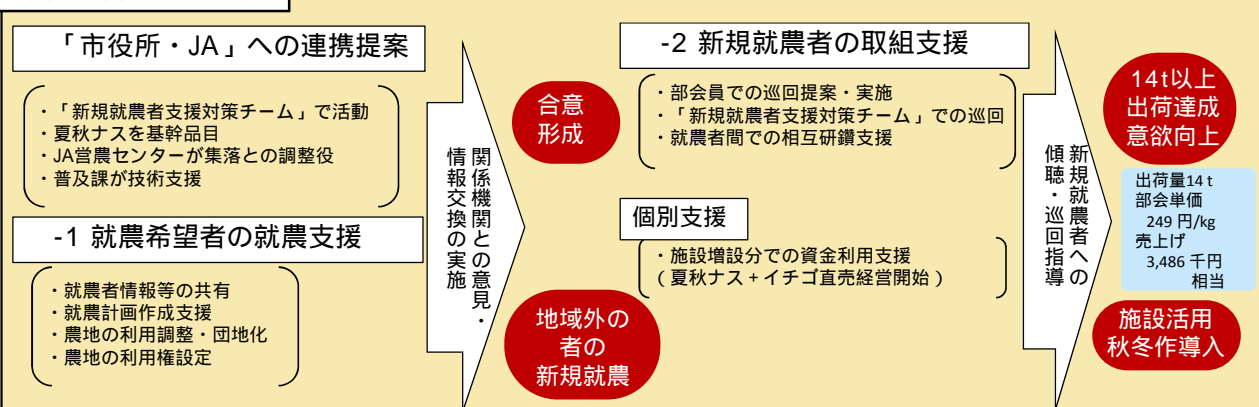
背景



目標



普及活動の手順



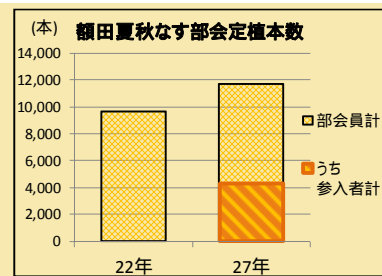
成果

活用しやすくなった地域資源



【夏秋ナス】
起点に、地域資源の
活用が進み、
「活力」が増進した

- 新たな人材(3名)の流入 (平成28年就農希望者)
- 部会の規模(定植本数)拡大 活動活発化
- 夏秋ナスの活用拡大 (新規就農者の経営規模拡大)
- 未利用資源(施設)を活用した 秋冬品目の導入



関係機関・団体等と連携した獣害防止対策への取組 ～ 獣害に負けない集落を目指そう～



豊田加茂農林水産事務所農業改良普及課

1 課題の背景

豊田市の中山間部では...

- ・農家の高齢化と獣害(イノシシなど)による営農意欲の低下から耕作放棄が懸念
- ・獣害をまねく原因に侵入防止柵の維持管理不備

2 目標

集落ぐるみで対策に取り組む

モデル集落の育成



3 活動内容

市役所、農協との情報共有&連携協力(平成23年度～平成25年度)
実働部隊によるモデル候補集落での獣害対策支援(平成26年度～)

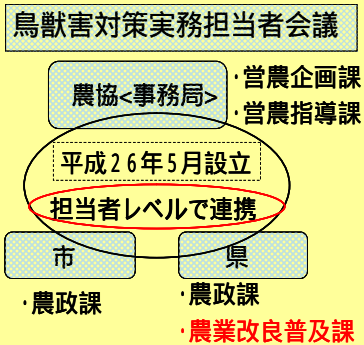
【対象集落:豊田市小原地区の集落(農家数48戸)】



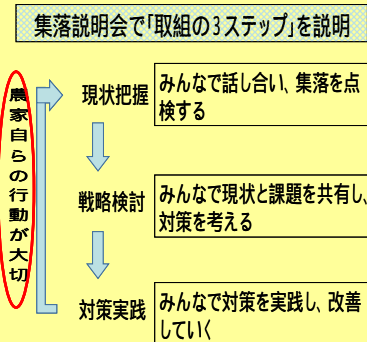
現地実証の打合せ

モデル候補集落を対象とした普及指導活動

実働部隊は...



活動開始に当たり...



ステップ -1 現状把握
集落点検地図作成



被害を「見える化」

ステップ -2 現状把握

集落点検地図に基づく現地踏査

みんなで現地踏査



侵入防止柵の破損や侵入跡を発見



ステップ 戦略検討

集落勉強会

実務担当者会議で事前検討



勉強会で侵入防止柵の管理方法を提案



ステップ 対策実践

見まわりの実践と補修

侵入防止柵の見まわり



改善を図り集落で情報共有



4 成果

対象集落が、集落ぐるみで山林部の侵入防止柵を適切に維持管理する、新たな取組を始めた。→ **地域のモデル集落へ**

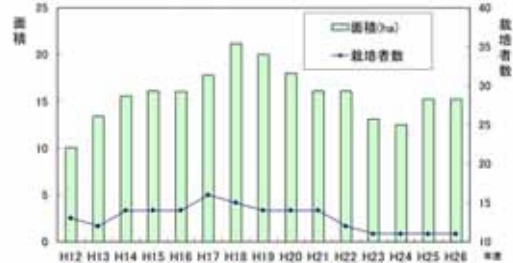
5 今後の課題

捕獲や**環境管理**など新たな取組をすすめることが必要。

酒米「夢山水」を核とした設楽地域稲作の活性化

新城設楽農林水産事務所農業改良普及課

酒米「夢山水」は設楽町名倉(標高650m)を中心に栽培されている。稲作農家の高齢化が進み、設楽町の酒米面積が減少してきた。



普及課では、山間地稲作の担い手の確保のため、酒造会社との信頼関係の構築、「夢山水」中心の地域稲作推進を目的として活動をおこなった。

「設楽町営農会議」で検討
役場、JA、普及課で毎月開催



「夢山水」推進戦略を議論
稲作経営体の育成が重要課題

酒造会社との交流会



酒造会社と生産者の交流で信頼を深める
品質調査結果を全戸で通知
施肥、栽培管理から結果を検証
→品質管理の徹底

GAPによる品質保証



H24からGAP手法を導入
ほ場準備、育苗、防除、収穫など
30項目の酒米のチェックシートを作成する

新たな担い手の育成



企業参入(地元酒造会社)の支援
基本技術の励行
適正なブロックに分けた作付体系

【成果】

- ・酒米会社との信頼関係の構築
酒米ほ場見学
品質管理の徹底
GAP手法導入(安全安心対策)
- ・新たな担い手の育成
地元酒造会社農業部門の立ち上げ
酒米栽培面積の確保
- ・「夢山水」と地域流通加工米で地域稲作活性化を実現

【成果の上った要因】

JAとともに栽培技術検討、ほ場見学会開催、GAP導入、品質管理の徹底をおこないJAと連携した一体的な活動を実施したことで、販売する酒造会社の信頼が得られた。
「夢山水」推進戦略の実現のために関係機関一丸となった的確な指導により、地元酒造会社と信頼関係を構築した。

ヒートポンプ導入による 老舗スプレーギク産地の基盤強化



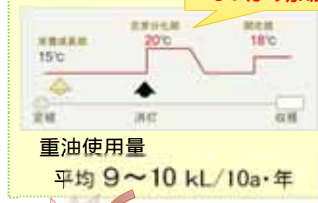
東三河農林水産事務所 農業改良普及課

1. 背景

【対象】JAひまわりスプレーマム部会 (67戸)

高品質の要は
「しっかり加温」!

チャンス 農水省が補助事業を発表(H25.2)



平成24年度 補正予算 『燃油価格高騰緊急対策』 【予算:425億円】

内容

1. 施設園芸省エネ設備のリース導入支援 (補助率 1/2 up)

ヒートポンプ 熱室設備 管理用 etc.

・18戸が試験的にヒートポンプの導入を申請したが...

高品質・周年安定供給

・全国有数の“老舗”ブランド産地

重油高騰 売上の15~20%が重油ボイラーに喰われてしまう!

「しっかり加温」しないと... 生育遅れ・品質低下・需要期の出荷減少

節油率? 電気代? 温度? 生育? 品質?

実績がなく不安が一杯

2. 目標

将来的な方向性

補助事業を利用し、ヒートポンプの導入を拡大

重油価格に左右されず
周年安定供給のできる産地に!

導入予定の18戸:モニター
25年冬にデータ収集

ヒートポンプの
効果とコストを明確化

26年4月の研究会で全部員に報告しよう!

普及課・JA・部会の共通目標

3. 活動の内容

温度を“見える化”

温度データロガー
「おんどり@」

室温の分布
暖房機の稼働状況

25ほ場で実施

重油を“見える化”

重油タンク
加温開始
特製スケール
目盛チェック推奨

コストを“見える化”

【導入コスト】
・工事費

【ランニングコスト】
・電気代

伝票とメーターから集計

18戸のデータを比較
集計用紙を作成・配布

面積、機種、台数などとコストの関係を分析

生育・品質への影響チェック

開花揃いが向上
生育(伸長)が向上
花色、花型、フォーメーション良好

聞き取り・観察

暖房費用を計算(7事例)



回収期間のシミュレーション

機種	設置台数	導入コスト	ランニングコスト	回収期間
HP型	10	100	10	10年
HP型	20	200	20	10年
HP型	30	300	30	10年
HP型	40	400	40	10年
HP型	50	500	50	10年
HP型	60	600	60	10年
HP型	70	700	70	10年

全部員に報告

採算性はほ場毎に異なる!
コスト試算シート
作成・配布

4. 成果

ヒートポンプ導入の効果とコスト、留意点が明確に

不安解消 ・新規導入の判断指標ができた

ヒートポンプの導入拡大進む

【H27.12】
25戸、60施設に(計582a;産地全体の約1/3)

産地ブランド強化

5. 今後の課題

ヒートポンプのより効率的な利用方法を検討

節電

・温度設定(時期別)
・循環扇
・冷房利用 etc.

+節油

事前情報発信を目指した カーネーションの出荷量予測方法の検討

東三河農林水産事務所田原農業改良普及課

対象

JA愛知みなみカーネーション部会 11戸、平均年齢:51歳、栽培面積:約400a

背景

出荷量は減少・販売単価は長期低迷 現状維持志向、部会活動の停滞

手法

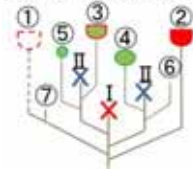
販売単価向上を図るため、事前に実需者に**出荷量予測情報を発信し、予約相対取引量の増加**を目指す

問題

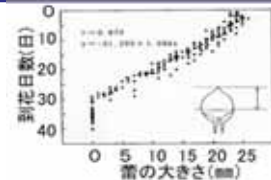
事前に出荷量予測情報を把握する方法が未確立

未確立の要因

花芽分化に必要な絶対的な条件がない
栽培期間が長く、
様々なステージが混在する



蕾の大きさと到花日数には相関
(今村ら、1997)



基準となる蕾の大きさを決めれば
到花日数を予測できるのでは？

目標

出荷量予測の実施により部会活動を活性化し、カーネーション経営の魅力向上を図る

活動

<p>1 実証試験実施の合意形成</p> <p>部会長や試験農家候補者 試験実施の協力を合意 農協販売担当者 販売への活用方法を検討 部会員全員(定例会)</p>	<p>2 基準となる蕾の大きさの検討 開花ステージを6段階に分類し、 到花日数の季節変動を調査</p> <p>季節変動の少ない蕾の大きさが判明。 基準をステージ4に決定</p> <p>ステージ4</p>
<p>3 -1 出荷量予測方法の検討 案の1 2週間後の出荷量の増減を予測</p> <p>ほ場全体を眺めて、 収穫中の本数に対し、 ステージ4の蕾の数が 多いか少ないかを直感的に判断</p> <p>増減傾向の予測は可能</p>	<p>3 -2 出荷量予測方法の検討 案の2 2週間後の概ねの出荷本数を予測</p> <p>ほ場内5か所(70株/1か所)で ステージ4の蕾の大きさの数を カウントし、予測</p> <p>増減傾向の予測はできた 出荷量も概ね予測できた(精度は高くない)</p>
<p>4 部会の定例会で試行に向け合意形成 2案を掲示して部会員自身が決定</p>	

成果

開花予測に用いる蕾のステージを決定
部会員自身による試験方法の決定

新たな取り組みに向け**意欲が向上**